慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	医薬品のテクノロジーアセスメント
Sub Title	
Author	坂巻弘之(Sakamaki, Hiroyuki) 田中滋
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第842号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0842

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No.842

学生氏名　坂巻　弘之
（サントリー株式会社）

主査　田中　滋
副査　藤枝　省人
池上　直己

所属　田中　滋　研究室

医薬品のテクノロジーアセスメント

現在、わが国の医療政策は、”医療費適正化”と医療の”質の向上”という重要な課題に直面している。この２つの解決にとって医薬品は重要な位置を占めるため、これからの医薬品には有効性・安全性に加え、広く社会経済学的側面も含めた多面的なテクノロジーアセスメント（ＴＡ）が必要である。本研究は、医薬品ＴＡのうち、特に社会経済学的評価の必要性、方法論および機能についての検討を目的としている。

医薬品の社会経済学的評価は、社会全体における効率性評価を目的とする。一方、医療の効率性は、医療への資源投入（費用）と結果とを正しく測定し、医薬品による「結果／投入」を他の代替案と比較した結果により評価される。ここで用いられる手法としては、結果の扱い方により費用－効果分析、費用－便益分析、費用－効用分析に分類できる。本研究の前半でこれらの方法論における問題点とそれに対する考え方を指摘した。

次に、薬剤費が医療費上昇の一因となっている点に鑑み、医療費適正化のために、①新薬の薬価算定の根拠、②医薬品の過剰投薬を抑制するガイドライン作り、③新たな効能拡大における評価、に果たすＴＡの機能を考察した。

また、医療技術レベルと医療の効率性について検討し、今後、慢性疾患の増加が予測される中で、医療の効率性と質の向上に寄与する医薬品の開発が重要であり、そのためにもＴＡが生かされるべきであるとの指摘を行った。

最後に、わが国においてＴＡが進展していくためには、医療関係者間で医薬品ＴＡの必要性に対する認識が高まるとともに、医療情報の公開が重要であると結論づけている。